

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成30年度第4回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	平成31年2月28日（木）午後7時00分～8時40分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2
出席委員の氏名 又は人数	直田春夫会長、岸本信子委員、藤井琢己委員、黒崎晃史委員、米田育子委員、清水賢一委員、肥田雅之委員、高橋章子委員、篠田善健委員、富永信義委員、小林茂夫委員、吉川勝子委員 計12名
欠席委員の氏名 又は人数	藤原悟委員、小出茂夫委員、徳丸徹委員、大前道廣委員 計4名
出席職員の職・氏名 又は人数	西脇市長 片山象三、都市経営部長 筒井研策、まちづくり課長 池田正人、まちづくり課主幹 笹原祥市、まちづくり課主査 山上公平、まちづくり課主任 和田裕行、まちづくり課職員 遠藤香里 計7名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1名
議題又は協議事項	1 開会 2 会長あいさつ 3 答申書提出 4 市長あいさつ 5 意見交換 6 その他（今後の予定） (1) 来年度のまちづくり推進審議会の予定について
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
会長	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>≪直田会長あいさつ≫</p> <p>今年度の審議会は今日で最終となる。協議を重ねてきた結果として答申書を本日片山市長へお渡しするが、答申書を作成する段階で委員の皆さんには多くのご意見をいただいた。答申には皆さんのご意見がまんべんなく反映されていると言える。委員の任期</p>

	<p>は来年度もあるが、今日答申書を提出して一段落となる。答申書の内容が実現していくよう皆さんのご協力をいただきたい。</p>
<p>会 長</p> <p>市 長</p> <p>事 務 局</p>	<p>3 答 申</p> <p>地域自治協議会モデル事業の検証等について</p> <p>◇直田会長から片山市長へ答申書の提出</p> <p>4 市長あいさつ</p> <p>《片山市長あいさつ》</p> <p>直田会長をはじめ委員の皆さんには昨年度から7回にわたって慎重にご協議いただき、西脇市にとって最良の答申をいただいたことに感謝を申し上げます。西脇市の将来に向けて必要なことを答申に盛り込んでいただいている。市議会とも情報を共有し、向かうべき方向に向かい強い思いで進めていきたい。</p> <p>現在、西脇市においては多くの中学生、高校生が全国レベルの活躍をしてくれている。そういった若い力が西脇市で育ち、羽ばたいてくれるというのはすごくいいことだし、西脇市の将来を支えてくれる力であるので嬉しく思う。</p> <p>平成32年度には新庁舎ができるが、全国で初めて市役所、市民交流施設などの複合施設として整備を進める。さらに医師会、歯科医師会、薬剤師会にも入ってもらい、西脇病院とも連携し健康ゾーンの充実を進め、みらいえとあわせ年間100万人の賑わいをこのまちでつくっていくことを目指している。市役所を中心に賑わいを生み出すことも含め、地域を元気にしていく基礎となるのは各地区の底力であり、それにつながる重要なことを答申で示していただいたと思っている。今後も皆様のお力をお貸しいただきたく思う。</p> <p>○市長については公務のため退席をさせていただく旨説明</p> <p>◇市長退席</p>
<p>会 長</p>	<p>5 意見交換</p> <p>市長のお話で西脇市の若い方たちがスポーツや科学や人権作文など多方面にわたって全国レベルの活躍をされているということをお聞きしたが、若い人たちがいろんなかたちで自分の能力を發揮できるような環境をつくっていくことも西脇市自治基本条例の大きな役割ではないかと思う。それに基づいて地域自治の仕組みもやはり若い人たちが埋もれずに表に出てきていただいで活動できる場を提供していくような仕組みであれば良いと思う。</p> <p>答申を提出させていただいたので、今後はその内容を実現させていくように努めていただき、市の政策に生かしていただければと思う。答申書では詳細は書いていないが、議事録等で委員から</p>

	<p>の意見を勘案してもらい、具体的な制度設計を進めてもらえればと思う。また、その成果等については先の当審議会で進捗状況の報告をいただければと思う。</p>
委員	<p>意見交換についてはこれまでの協議についての感想や、今後協議を進めていきたいことの提案等のご意見をお聞かせ願いたい。</p> <p>空き家の有効活用について、全国的に多くの取組がある。比延地区の住吉町においても空き家が増えているが、陶芸などをされている方などをお招きし「陶芸エリア」のようなものをつくることができればと思うことがある。私も陶芸をやっており、魅力を知っているのでもうなれば良いと思っている。先日テレビで見かけたが、大分県でのIターンの取組が紹介されていた。年間200人近くの若い方が転入されている地域もあるので事例を参考に何かのヒントが得られればと思う。</p>
会長	<p>地域自治協議会で空き家対策に取り組んでいる事例が京都市の六原という地域であり、参考になることがあるかもしれない。Iターンについては、西脇市においては若い方が活躍されているという話をお聞きしたが、その点は若い世代を呼び込むためのインセンティブになると思う。若い方が活躍できるということは、それだけ子どもの教育にいい環境があるということにつながる。陶芸など芸術や産業でIターンが進むという事例も多くあるので、西脇市においても進めることができればと思う。</p>
委員	<p>空き家の活用では、比延地区自治協議会が取組を進めようとしているところで、地域自治協議会が空き家対策事業にどこまで関わってやっていくかということ、来年度みんなで話し合いながらルールをつくっていかうとしている。空き家の問題は住民の生活に密着した部分であるため対策を進めるべきだと思っている。空き家を改修し、比較的若い世代の方に住んでもらいたいという話も多いが、比延地区においては60歳代くらいの方で仕事が一段落し、まちづくりに関わることができる時間のある方などが移住してこられればという意見も出ている。</p> <p>答申の参考別紙にあるように比延地区では特産加工場を活用した取組を進めているが、現在イチゴ農家の方と連携しながらジャムの商品開発を進めている。それとは別にトマトソースの製造のお話など、いろいろなものをつくってほしいという要望も多くあるが、全てを作っていく体制はない。加工場の事業で収益を得て雇用を生み出し、いつも稼働しているというのが理想であるため、そうなれるように活用していけたらと思っている。</p>
会長	<p>地域自治協議会が空き家対策にどこまで関わっていくかということ、皆さんで研究されることに非常に期待をする。地域自治協</p>

委員

議会がバックにあると空き家も流動的に活用されるかもしれない。特産品の開発を進められていることも非常に期待ができる。特産加工品の開発によって地域自治協議会の収入が増えれば、また様々な活動の広がりにつながるので、良いサイクルが生まれればと思う。地域の特性のあるもので、比延地区ならではのものを生み出していただければ本当に良い流れと思う。

私は今年度からこの審議会に参加したので、これまで皆さんが積み重ねられてきた協議の経過もわからないまま、いろいろな意見を言わせてもらったことについて申し訳なく思う。私は地域で活動をしている当事者でありながら、審議会では市全体のことも考えていかなければならないというなかで、利害関係者が市全体のことを考えていくのは本当に難しいことと感じた。自分たちのことは多少捨ててでも、市全体が上手くいく方法を探るというのは本来の大義だと思うので、その大義に向かってできるだけ進めていきたいが、自身の地域が不利になるのは避けなければいながら、自分なりの意見を言わせていただいた。

芳田地区は市内でも一番小さな地区で人口も少ない。しかしまちづくり活動に関しては他の地区に比べても早い時期から活動を始めており歴史がある。しかし、それ以来大きな進展をすることもあまりなく底上げができていないといった感じを受けている。まちづくり計画については2015年にそれまでの計画を大きく見直したが、大きな争点になったのが地域の活動拠点をどうしていくかということであった。時期を同じくしてこども園の関係で新たな建屋を建てることになり、空いた旧芳田保育園の有効活用ができないかということで様々な団体が集まり話し合いもしたが、地理的なことなどの制約があり再利用できないという結論に至った。現在は芳田の里ふれあい館を活動拠点として使っているが、場所や山肌にあるという地理的なことなどから、活動拠点としては適切ではないと思っている。そのため、芳田地区のまちづくり活動に関して、活動拠点をどうしていくかということが地域の中でホットな話題となっている。もう一つは芳田地区には水害時の指定避難所がなく、西脇南中学校、重春小学校まで行くことになっている。大雨時に野間川の横にある道路を使って西脇南中学校まで行くことが本当に安全なのかという疑問もあるなかで、芳田地区内に避難所ができるということが住民の切望していることとなっている。その2点を抑えることのできるハード的なニーズが芳田地区の中で非常に高まっているなか、形に変えていくにあたって自分たちの現在の活動が下火になってしまえば話は始まらない。そのため、持続できる活動についていま一度活動を見直し

	<p>ていかなければいけないと考え、来年度には地域の活動計画の見直しに取り組んでいきたいと考えている。そのなかで組織のあり方として地域自治協議会への移行という話も出てくるかもしれないが、私たちは地域自治協議会の設立ありきでは話を進めないように考えている。地域のまちづくりをどうしていくのかということを中心に考え、活動を進めていく上での組織を考えた時に地域自治協議会がいいのか、今までどおりまちづくり協議会がいいのかということを考えていきたいと思っている。そのなかでもう一つ大きく変わってくるのが補助金やお金の使い方ということになるが、どのような方法が私たちの活動に見合った形となるのかということもあわせて考えていきたい。そのようなことから、今芳田地区ではまちづくりに関して大きなターニングポイントになっている。皆様のご意見やご経験などを聞かせてもらうことが非常に参考になるため、お知恵を拝借しながら西脇市全体のまちづくりの進展も考えていきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>地域のことと市全体のことを両方考えなくてはならない場がこの審議会であり、そういう意味ではある種のジレンマに直面することもあるかもしれないが、地域の現状、特性を反映したうえで大きな方向を決めていかなければならないこともある。決して市全体だけのことだけを考えて地域のことは目をつぶるということではない。両方の面でうまく進んでいけるように仕組みを考えていかなければと思う。地域によっては活動拠点や避難場所のことなど非常に苦慮されている面もあるということだが、この点はまず地域から協議をしていただき、解決できなければ市全体の問題として考えていくという流れが解決への道筋かと思うので続けて協議を重ねていただければと思う。まちづくり計画についてもいま一度行動計画を考え直すということだが、印象に残ったのは、活動の方向を第一に考え、それに対して何が必要かということによって組織や活動資金や施設等を考えていきたいとおっしゃったが、それはすごく大切なことだし、正しい議論の進め方かと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>私は時々他のまちへ出かけ、そのまちの良さを見たり聞いたりするようにしている。私が現在関心を持っていることとして、旧図書館が改装され市民交流施設として生まれ変わるということですごく楽しみにしている。また、ギャラリーがあったり小さな図書館があったりと、高齢者から子どもまで色々な人が集まって話ができる場、また子育て中のお母さんたちが集まって交流を深める場ができると聞いている。そのためすごく楽しみにしている。</p> <p>市民センターではNPO法人の「ぐりん」が活動をしているが、芸術の分野で活躍をされており、3月にも美術展をされると</p>

<p>会 長</p>	<p>ということなので楽しみにしている。私自身は西脇病院のエントランスで作品展示をこれまで8回させてもらったが、現在展覧会の予約をしようとする2年待ちであるとのことで、すごく利用者の多いギャラリーだ。市民病院でそのように人気のあるギャラリーを持つ病院はおそらくないと思う。そういう意味では西脇市や西脇市民病院は素晴らしい取組をされていると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>まちの中にアーティストが多くいらっしゃるというのはまちの活性化に大きな材料となる。文化芸術関係の方がまちの情報をいろいろな形で発信し、地域の活力の底上げになるということはよく見られることなので期待したい。地域自治協議会も今後は文化的なことについても保全や有効活用などの取組がなされ、地域の人々の文化的な生活の質の向上を図る活動につなげていかれることと思うので、委員の知見を発揮されるよう期待申し上げる。</p> <p>この審議会では将来の西脇市のまちづくりに向けた制度設計を盛り込んだ答申書を提出することができた。現在比延・黒田庄地区で地域自治協議会のモデル事業をされ、非常に活発に活動を進められているが、他の地区も一括交付金を活用し、それぞれにモデル地区を参考にした活動を進めてもらえればと思う。私は西脇市と黒田庄町の合併協議会からまちづくりに携わらせてもらい、当時は合併に係る全てのことの話をしてきた。そのなかで様々なまちづくりの話もし、実際に活動にも携わってきたが、やはり先にあるのは、西脇市の将来は明るいのかということだ。合併協議会で協議をした当時の人口予測、総合計画を策定した当時の人口予測、またその後の人口予測と見てきたが、更新するごとに人口減少は進んでいる。とうとう政府（人口研）の発表では2045年には27,000人になるということで37%のマイナスという数字が出ている。そのような現実を見ていると、地域は生き残ることができるのかという思いが出てくる。そのため何とか対応していくために地域自治協議会の仕組みを確立し、まちづくり活動の実践をおして自分たちの地域は自分たちが守るという方向で進めていかなければ維持していくことは難しいと思う。市税収入についても減少傾向にあるので地域自治協議会も今の予算でどこまでできるかという心配もある。私は税理士をしており、今年度特に感じることは、西脇市の繊維産業は本当に今元気を失っていることだ。釣り針産業も中国情勢の影響であまり良くない。大手の企業はできればもっと都市部へ進出したいと思っているのが現状ではないかと思う。そのような中で西脇市が本当に地方都市として生き残っていけるのかということは今真剣に考えなければ明るい未来はないと感じている。特に人口が減り、65歳以上の割合が非常に</p>

<p>会 長</p>	<p>高くなって、生産年齢人口が少なくなってくるため、事態は急を要すると思う。そうなればコンパクトシティを目指すほかないように思う。</p> <p>当審議会においても人口推計などを見てきたため、この先人口減少が進んでいくことが深刻な状況であることは皆さんご理解いただけたと思う。また人口減少に並行して産業の衰退も考えられる。しかし地域としては生き延びていかなければならないので、そのためにどうしていくかということに知恵を振り絞っていかなければならない。しかし、この先西脇市は絶対に良くなることはないということではなく、希望は少なからずあると思う。西脇市の将来のために真剣に議論をしていかなければならないというのは確かであるので、無関心ではなく、市民みんなが自分ごととして考えていくことが必要かと思う。全国的に地域自治協議会のような組織は多くできているが、本当に活発な活動を進めているのは過疎地であることが多い。そういった状況になってくると住民は自ずと活発に活動を進める。そのような例からしても西脇市でできないことはないので、西脇市においても人口減少は進んでいくが、希望は多くあると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>これまで多くのお話をお聞きし、人口がどんどん減っていくというのは身近に感じている。津万地区内でも集落によっては空き家がどんどん増え、子どもが少なくなり高齢者ばかりという集落も出てきている。しかし、逆に子どもの数が増え、若い世代が活発に活動をしている集落もある。そのような状況のなか、自分が今この審議会に参加し、委員の皆さんのお話を聞いたりすることが、津万地区の地域自治協議会のことを考えていくうえで非常に参考になる。津万地区では今地域自治協議会の設立に向けて一生懸命進もうとしているが、何とか地区のみんなで頑張っ盛り上げていきたいと思っている。</p>
<p>委 員</p>	<p>答申書の地域自治協議会モデル事業の検証の資料などを見て、やはり比延・黒田庄地区の活動は素晴らしいと感じた。両地区それぞれの活動であるが、ここまでのことを実際に実行するというのは並大抵のことではないと思う。リーダーの方は特に大変なご苦勞もあったことと思うが、その人柄が地域の皆さんをここまで導いてきたのではと思う。</p> <p>私はボランティアグループの代表としてこの審議会に参加させてもらっているが、10年ほど前に初めて力を入れて行った活動が、市役所を花でいっぱい市役所にしたいと思い始めた活動であった。心豊かな活気のある西脇市にしたいと思い、西脇市の顔である市役所に種から植えて花を育ててきた。市花である「しば</p>

	<p>ざくら」を育てようという会ができ、10年近く会の代表をさせてもらっている。グループに集まってくる人たちは年配だが気持ちのある人ばかりで、魅力のあるグループにしていこうとみんなで頑張ってきた。現在は西脇市の玄関口で、上戸田の国道175号線沿いの交通島やその周辺に花を植え、手入れをさせてもらったり、へそ公園にしばざくらを植えさせてもらったりしている。これらの活動は私たちが自発的に西脇市のためにと行ってきた活動で、自分たちの生きがいとなっておりありがたく思っている。</p> <p>地域自治協議会モデル地区の住民のなかには、しぶしぶ活動に参加されている方もあるかもしれないが、結局は自分のためになるし、続けていくうちにやりがいのあるものになり、自分の提案によって地域の活力につなげることができるかもしれない。どんな活動もそうであるが、自分自身のために、仲間のために、地域のためにとやりがいは見つけられる。みんなで力を合わせられれば大きなことも進められ、素晴らしいことと思う。私は80歳を過ぎているが、夢を持っている。茶道をたしなんでいるが、家に多くの方を招き、お茶を飲んでもらえるようになればと思っている。人づくりの輪は素晴らしいことだと思っている。</p> <p>ボランティア活動においてはまちづくりの補助制度も活用し、活動を大きく発展させることができたので本当に感謝している。</p>
<p>会 長</p>	<p>委員のお話を聞くと、ボランティア活動というものはいかに前向きで明るいことかというのがよく伝わってくる。活動について様々な場面で伝えてもらおうと、より多くの志を持った方が集まってくるのではないかと思う。ボランティアに限らず地域自治協議会の活動や自治会活動などどんな活動でもある種の楽しさがなければ持続できないし人も入ってこないので、活動をする人が自ら楽しみながら進めていくというのはとても大切なことと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>比延地区の活動に関して、移動販売車が地区内を回られているところをよく見かける。毎回人が集まり、にぎやかに楽しそうに買い物をされている光景が印象的で、買い物支援、見守り、生きがい創出などいろんな意味で素晴らしい活動だと感じ、さらに充実・発展していけばいいと思う。</p> <p>空き家対策については改修をして募集すれば人は来られるかと思うが、田舎暮らしに憧れて移住してこられても2、3年で転出されてしまうことも多いと聞く。理由として人付き合いや近所付き合いなどが煩わしいという理由が多いとも聞いた。せつかく人のつながりや環境が魅力で転入してこられても、早々と転出されるということは残念なので、転入しようとする方には事前に丁寧な説明をしておくことや、また受け入れる方も柔軟に対応できる</p>

<p>会 長</p>	<p>度量を持ち、受け入れる準備をしておくことも必要かと思う。</p> <p>日本の人口がこれからもさらに減少していくことを受け入れ、このまま地域それぞれでやっていけるのか、あるいは都市機能を集中させながら進めていく必要があるのかということも念頭に置きながら、これからの地域づくりに真剣に向き合っていく必要があると考える。</p> <p>空き家を活用し、IターンやUターンで人が入る時に、近所付き合いや人付き合いがネックになるというのは確かにそのとおりで、転入される方には地域のライフスタイルをあらかじめ知ってもらったうえで検討してもらい、また地域の方もこれまでのライフスタイルで受け入れるのが良いのかどうか考えていくという双方の歩み寄りが必要なことと思う。移住して来られる方への要求が多い地域も少なくない。地域の実情を踏まえると柔軟に対応することが難しいこともあるのでうまく考える必要もあると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>人口減少は日本のほとんどの地域での課題であり、どうこうできるものでなく、人口が増える地域があったとしても日本の中で移動しているだけで、全体で見れば人口減少は続いていく。</p> <p>本来、子育ては大人が子どものお手本となり育てていくものであるが、西脇市では子どもが大人にお手本を見せてくれるような活躍をしてくれている。比延地区でも中学生が人権作文で素晴らしい賞をもらい、大人には考え付かないような感性で自分の思いを作文にのせてくれた。この子どもたちが感性豊かにのびのびと成長してくれ、将来地域を守ってくれればと願う。</p> <p>比延地区では地域自治協議会モデル事業でいろいろと事業を行っており、地区の将来を支える小さな柱が少しずつ建ってきている。今後は特産加工場の活動をさらに充実させ、移動販売についても地域の方々に喜んでもらえる仕組みにしていきたいと思っている。また、青年の家を利用される方で大口の注文は難しいが、少ない場合を対象に食事の提供をしてくれないかという話をいただいたため、地区で前向きに考えていきたいと思っている。</p> <p>空き家対策については地区としての取組も大切であるが、やはり地元集落の皆さんが中心となって進めていかなければ難しいこともあると思う。まちづくりとしては個人が充実して地域の活性化につなげていければ一番いいと思っている。何もしないよりも、やるだけやってという気持ちでこれからも頑張りたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>これまで比延・黒田庄地区については当審議会でもいろいろと活動事例の紹介などを含めお教えいただいた。比延地区の中学生が人権作文で優秀な賞をもらわれたということだが、比延地区自治協議会の事業で子どもたちの人権ポスターの作成事業などがあ</p>

委員

り、地域で子どもたちが心豊かに成長できる環境をつくってこられたことの積み重ねかと思う。子どもたちが成長し、ふるさとを思い、地区の将来を支えてくれることを期待したい。

人口減少については皆さん意識を持たれていると思うが、日本全体で起こっていることなので、単純にそれぞれの地域での減少率がどうこうというのはタイムラグがあるだけかと思う。それについては今からブレーキを掛けようとしても急に止まれない。現在進めようとしている備えは将来20年、30年先に効いてくるのかと思う。こういった答申を一つずつ進めていくのは一歩ずつ前に進んでいて、何かの活性化につながるきっかけの一つかと思う。それが長期的なところで評価されたりするのかと思う。人口が減っていくなかで、今の段階で地域自治協議会事業を展開していく意義は、その取組によって今いる方々が明るく元気に楽しくやっていけるということと、人口減少によって自治会が消滅していくと想定した場合、消滅の後、新たな枠組みで立ち上げようというのは非常に困難なことであり、その備えとして今のうちにできることに着手しているということであると認識している。現在、私は小学校のPTAの役員をしているが、今年度PTAの役員数について、規模に見合う人数に減らし、また体制を変えるなどの改革を行った。役員数を減らしたことについて皆さん喜んでらっしゃるのかと思っていたが、複数の自治会に跨り委員の定数が数人という地区で役員を選出が難しくなったといった相談をいただくケースもでてきた。そのような問題の解決のあたり、これまでのルールを見直すだけでも困難なことがあると痛感している。ましてや一から立ち上げるとすれば、何のために必要なのか、そのやり方で本当にうまくいくのかという議論に終始し、何も前に進まないように思う。今回地域自治協議会が立ち上がっていくなかで、消滅する可能性のある自治会の活動・事業を少しずつ吸収しながら、最終的には地域自治協議会単位での自治活動を進めていくようになると思っている。今は新しく何かを始めるために手間ひまをかけ、仕組みを自然なかたちに整えていく期間ととらえている。今後の展望ということで、人材に関して、立ち上げ期は熱量のある人に参画頂くことで良いと思うが、それが慢性化すると地域の住民からは自治活動に対して敷居の高さを感じ、気が付けば人材不足に陥り地域自治自体が衰退していくため、誰もが担える仕組みというのを考えていく必要があると思う。実際の運用については正解がある類の問題ではないため、今後もこのような場面で協議を重ね、問題・課題解決の事例を積み上げ、みんなで共有していくことが必要と考える。最後に役割の明確化で

	<p>ある。行政、市議会、住民、それぞれ自治協議会事業が進んだ時の役割がどう変わっていくのかを並行して見ていかなければ、重なりができ無駄が生じるように思う。白か黒かではっきりと縦割りにする必要はないが、進展を見ながら考えていく必要があるように思う。今後、地域自治協議会が増えていくであろうことを踏まえ、一括交付金の使い方や役割分担をどう考えていくかなど、先を見据えた議論ができればと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>当審議会の今後の方向も含めてご意見をいただいたが、みんなでやる仕組みというのはやはりとても大事だと思う。地域自治協議会も一部の人たちだけが頑張っても活動は広がらない。みんなが可能な範囲で動ける仕組みが必要かと思う。人口が減り、それで終わってしまうということではなく、やはり持続可能な展開を考えていくことが必要かと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>先日「北播磨夢会議」に参加した。会議ではこの審議会と同じような話題で地域活性化について話し合われたが、やはりあまり良い材料がないということでどんどん暗くなっていった。しかし、そのなかで若い人たちが自分の思いを発言したり、各地域の誇りの話が出てきたり、少なくとも夢を語られている限り地域の未来はあるのではないかと思いながら聞いていた。この審議会でもこれまで参画と協働をテーマに朗読劇をしたり、各地区のまちかどミーティングに参加したりしてきたが、手探りでもひとつずつ前に進んでいるような気がする。現在津万地区でも地域自治協議会の立ち上げに向けて協議を重ねているが、私はこの先も携わらせてもらいたいと考えている。津万地区でもこれから先のことを考える際にはいろいろな意見がでるが、それを実現させていくためにみんなで協力していこうと夢が膨らみ、先をどうにかしようとするみんなの思いが固まっていくと地域は生き続けるというか、年齢だけでは考えられないものが進んでいくように思う。私たちのなかでは「ここまで来たのだから何とかやっ払いこう」という団結力で前に進んでいるような気がする。津万地区で古民家の改修の話を進めたり、若い世代の部会ができたりと、筋道と理論と実行とで両輪のように進んでいるなかで、市のまちづくり課からアドバイスをいただいたり、先進地への視察研修に行かせてもらったりするなかで、他の地区に行き状況などを知ると、いかにきめ細やかな支援をしてくださっているのかということに気が付いた。はじめの頃、参画と協働と言われた時には市の仕事の肩代わりをしようと思っていたが、実はそうではなく、そこに住んでいるものの力をつけていくという意味での参画と協働であったんだと思えるようになってきた。比延・黒田庄地区の素晴らしい実践</p>

<p>会 長</p>	<p>のあと、津万地区も何とかついていけたらと思っている。</p> <p>夢をもって進めること、先の展望をもって進めることが大切だということは私もそう思う。</p> <p>人口減少というのは自治をかたちにするチャンスではないかと考えている。人口減少や高齢化が進んでいる過疎地域などでは、それぞれ地域自治協議会のような活動が活発で、自分たちの地域を自分たちで作っていきける、ある種の面白さというものが活力となって進んでいくということもあるのではないかと思う。自治を進めることによって住んでいる人の力をつけていくことにもつながるのではないかと思う。今後も他市町や、市内の他地区など交流を深め、情報交換をしながら自分たちに合った活動を進めていただければと思う。地域自治協議会はある意味自由度が高いという側面もあるので、工夫次第でいろいろな面白い活動ができる。</p> <p>皆さんからいろいろご意見をいただくなかで、今後この審議会でも議論していくべきことも見えてきたのではないかと思う。今後も引き続き議論を深め、地域自治協議会事業を含めた地域のあり方の仕組みなどについて考えていければと思う。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>地域自治協議会事業を、委員の皆様を代表に市民の皆さんのご理解を得て進めており、西脇市自治基本条例で定められた事業の推進ではあるが、新しいことを進めていくのは難しい部分がある。市民、市議会、行政のそれぞれの役割が定められているなかで、一括交付金制度では市議会で大枠となる予算を決定していただいたうえで、具体的な使い道を地域の皆さんの裁量で決めてもらっているため、新しいかたちをとっていると言える。新しい仕組みをつくっていかなければ、人口減少等に対応した制度設計や現在のまちづくり活動を維持していくことは難しいと考えており、行政も前向きに取り組んでいるので、皆さんにはご負担をおかけし申し訳ないが引き続き当審議会でのご提案や地域での活動にご協力を賜りたい。</p>
	<p>6 その他</p> <p>(1) 来年度のまちづくり推進審議会の予定について</p>
<p>問合せ先</p>	<p>都市経営部まちづくり課</p>